

アブダビ稲門会

Abu Dhabi



アブダビ稲門会の人ひと

People

会長メッセージ

アブダビは、7つの首長国が構成するアラブ首長国連邦(UAE)中最大の面積と経済規模を有する首長国であり、アブダビ市は連邦の首都でもあります。当首長国は豊富な石油・天然ガス資源に支えられ、連邦のGDPの約6割を占めていますが、その原油の最大の輸出先国は日本です。

当地では、得意先でもある日本人の勤勉さと規律正しさは周知のことであり、神話にも近いと思える日本の工業製品への信頼も相まって、日本および日本人への評価は随分と高いようです。昨今は、先の東日本大震災の際の、被災地における人々の秩序だった行動が知られるところとなり、この評価はますます高まっているように感じます。

さて、アブダビ日本人学校では、当国皇太子の要請により、7年前から、UAE国民児童を受け入れています。このなかから、将来早稲田に進学する生徒が出て、卒業後に当稲門会に入会してくるというのが私のささやかな夢です。



生方俊輔(1976年法学)

●他業種の方々との、さまざまな情報交換は非常に面白いものですが、資源豊かなアブダビでは、稲門会の会員も理工の資源系出身が多数。偉大な先輩方や、同じフロアで見たことはあるけど友達の友達、実習で面識のある後輩などと、日本からはるか離れたこの地で、思いもかけず距離が縮まることもあります。まずは学生時代に打ち込んだことや飲食店、当時の大学スポーツなどが「肴」になりますが、最近では子育てなどが話題に上ることもあり、時の流れを感じずにはいられません。

佐藤文俊(2003年理工)



新年会

会員からのメッセージ

●1980年代の終わり、私は最初の海外赴任地ロンドンにいました。その時、英国稲門会が設立され第1回総会に出席しました。マークス寿子さん、日比野ラグビー部監督(当時)らが記念講演をされたこと記憶しています。あれから四半世紀。この



度の、アブダビ稲門会の設立に立ち会い、とても感慨深いものがあります。英国とは異なり、一部の業界人以外まだなじみの薄いアブダビですが、これから会員の方々とともに盛り上げていきたいと思っています。

上田庸介(1981年商学)

●2002年に赴任して以来12年間、アブダビの発電造水事業に関わっています。アブダビは日本の第2位の石油輸入先にもかかわらず、12年前は、日本からの投資はLNG事業以外ほとんどありませんでした。しかしながら、現在では、アブダビの発電造水事業9案件のうち、日本企業は7案件に投資して発電造水プラントを運営しており、アブダビにおける電気と、海水を淡水化した水の安定供給に貢献しております。

林原道雄(1981年政経)

●中東という、男の社会というイメージをもつ方も多いと思いますが、ここUAEでは、そんなことはありません。お金持ちの彼らはメイドを雇い、共働きが当たり前。欧米カルチャーが浸透しているので、女性が仕事内容で差別されることもなく、日本より進んでいると感じることも。とはいえ、性格的には控えめな女性が多く、それがよしとされる雰囲気もあるので、自己主張が当たりの欧米よりも、日本人女性には働きやすく感じられます。

内田美穂(2001年理工)

アブダビ稲門会について



発足式

アブダビ稲門会は生方俊輔氏を会長とし昨年10月29日に男性会員27名、女性会員2名の合計29名の会員を擁し、会員相互の交流親睦、母校と母校校友会の発展、地域社会への貢献を目的とし発足いたしました。

日本の第2位の石油輸入先であるアブダビの稲門会ゆえ、約80%の校友が石油開発会社に勤務しており、約70%が理工学部卒業、また、約30%が大学院卒業という点が特色として挙げられると思います。

アブダビへの複数回の赴任を通じ通算勤務は10年を超える校友も多数おり、当会会員が日本のエネルギー安定調達の一翼を担っているといっても過言ではありません。

アブダビからの留学生勧誘活動を開始した

福岡哲也(1983年理工)

アブダビの魅力



シェイク・サイード・モスク

駐在員の目から見たアラブ首長国連邦(UAE)首都、アブダビの魅力が3つご紹介します。

第一に治安・政情が非常に安定していることです。サイード前首長(UAE大統領在任1971-2004年)の部族間の融合と富の公平な配分に重点を置いた政策のおかげで、夜の街を女性が1人で歩いても大丈夫くらい治安・政情が安定しています。街中の緑の多さも魅力です。

第二にどこまでも続く砂漠と満天の星に代表される美しい自然が挙げられます。アブダビの砂漠の楽しみ方は、自分たちで四駆を運転

し、白から赤へ移り変わる砂の色のグラデーションを楽しみ、満天の星のもとでのキャンプファイヤーで一日を締めくくるプランです。スタックした車を全員協力して救出するのも楽しみの一つです。

第三はUAE国民の優しさです。日本人以上に義理と人情にあふれていて、とくに小さい子どもに対しては国籍に関係なくいつでもサポートの手を差し伸べてくれます。先に挙げた治安のよさとUAE国民の子

どもに対する優しさのおかげで、乳幼児をもつ若い家族が子育てするには理想的な環境です。校友の皆さま、ぜひ、ご自分の目で確かめて来てください。

百武良幸(1980年理工)



四駆で砂漠をドライブ